

【福島県合同輸血療法委員会】

輸血に関するアンケート調査集計結果（2016年）

*参考：【 】内は2015年1月～12月の調査結果

1 調査対象施設等

- (1) 調査対象施設：県内の病院98施設
- (2) 調査対象期間：2016年1月から12月まで
- (3) 調査方法：アンケートへの依頼文書を郵送で送付し、福島県薬務課のホームページよりファイル（Excel形式）でダウンロードし、記入したファイルをメールに添付した形で回収した。対応が困難な場合は、FAX等で回収した。
- (4) 回収率：89.8%（88病院から回答）

2 集計結果の概要（項目別）

I 輸血管管理料取得状況について

45病院（51.1%）〔管理料Ⅰ：12病院、管理料Ⅱ：33病院〕

II I & A取得状況について

取得済：4病院、取得予定：1病院、取得予定なし：82病院、無回答：1病院

III 輸血療法委員会等について

(1) 輸血療法委員会等の設置数

66病院（75.0%）※内2施設は2016年に新設 【65病院（73.2%）】

(2) 輸血療法委員会を設置しない理由（複数回答あり）

22病院（25.0%）

（使用がほとんどない：11、他の委員会で協議：6、指導医がいない：10、その他：2）

(3) 輸血療法委員長の職種

医師（専門科目：外科25（心臓血管、脳神経、消化器、整形等を含む）、内科21（消化器、循環器、腎臓、血液等を含む）、循環器科4、麻酔科3、泌尿器科3、病理細胞診1、産婦人科1、消化器科1、輸血・移植免疫部1、小児科1、精神科1、歯科1、記載なし1）、看護師1、臨床検査技師1

(4) 輸血療法委員会の開催回数（回/年）

6回/年：43、12回/年：9、1回/年：5、2回/年：3、3回/年：2、9回/年：1、4回/年：1、1～2回/年：1、随時：1

(5) -1 県内認定臨床輸血看護師、アフェレーシスナース、自己血輸血看護師、認定輸血検査技師人数（合計）

認定・臨床輸血看護師：59、認定・アフェレーシスナース：2、認定・自己血輸血看護師：10
認定・輸血検査技師：25

(5) -2 輸血療法委員会参加人数（医療施設数/輸血療法委員会有66施設）

認定臨床輸血看護師：30（13/66） 認定・アフェレーシスナース：0

認定・自己血輸血看護師：5（3/66） 認定輸血検査技師：14（11/66）

IV 指針等について

(1) 輸血部門の設置数等（複数回答あり）

輸血部門：60病院（68.2%）【2015年：62病院（71.3%）】

{	検査部	53件
	輸血部	2件
	薬剤部	4件
	その他	1件

血液製剤保管場所（複数回答あり）

}	検査部	65件
	薬剤部	20件
	輸血部	4件
	その他	3件
	未回答	4件

(2) 自記温度計、警報装置の設置数等（複数回答あり）

自記温度計：69病院（78.4%）【68病院（80.0%）】

記録の頻度	}	毎日	66件
		その他	2件
		週に1回	1件

警報装置：76病院（86.4%）【73病院（85.9%）】

冷蔵庫・冷凍庫の保守点検の頻度 { 毎日 49件、年に1回 11件、月に1回 10件
週に1回 4件、半年に1回：1件、その他9件 未回答4件

(3) 他の管理項目等

1) 運搬容器の設置：65病院（73.9%）【65病院（74.7%）】

2) 輸血用血液製剤と血漿分画製剤の管理の一元化：32病院（36.4%）※血液製剤のみ一元管理：1施設
【36病院（41.4%）】

3) 管理記録簿等：88病院（100.0%）【87病院（100.0%）】

内訳（複数回答有）

手書き伝票：39、コンピュータ管理：30、両方：20、その他：2

(4) 感染症検査用検体の保管等

67病院（76.1%） 【63病院（72.4%）】

(5) 輸血前後の感染症検査の実施

輸血前後両方 36、輸血前のみ 28、輸血後のみ 10、行っていない 13、無回答 1

V 輸血用血液製剤使用状況について

全血液製剤使用単位数合計249,185単位

(1) 赤血球製剤の使用量は103,198単位で、輸血用血液製剤全体に占める割合は、41.4%である。

(2) 血小板製剤の使用量は118,195単位で、輸血用血液製剤全体に占める割合は、47.4%である。

(3) 血しょう製剤の使用量は27,792単位で、輸血用血液製剤全体に占める割合は 11.2%である。

VI 輸血用血液製剤廃棄状況について

全血液製剤廃棄単位数合計2,478単位 【2,779単位】

全血液製剤の廃棄率は0.9%である。 【1.1%】

(1) 赤血球製剤の廃棄量は1,637単位。【1,550単位】

(2) 血小板製剤の廃棄量は400単位。【400単位】

(3) 血しょう製剤の廃棄量は441単位。【829単位】

○輸血用血液製剤の在庫状況

輸血用血液製剤在庫有 13病院

VII (1) 年代別及び男女別輸血状況について

輸血患者総数 17,667人

}	90歳以上	1,431人 (8.1%)
	80-89歳	4,361人 (24.7%)
	70-79歳	5,940人 (33.6%)
	60-69歳	3,188人 (18.0%)
	50-59歳	1,285人 (7.3%)
	40-49歳	644人 (3.6%)
	30-39歳	298人 (1.7%)
	20-29歳	169人 (1.0%)
	10-19歳	110人 (0.6%)
	5-9歳	55人 (0.3%)
	0-9歳	186人 (1.1%)
{	男性	8,745人 (49.5%)
{	女性	8,922人 (50.5%)

(2) 疾患別輸血患者数 ※2016年7月(ひと月分)の状況

疾病別輸血患者数合計 2,795人

}	悪性新生物	371人 (13.3%)
	血液及び造血器	413人 (14.8%)
	消化器系	566人 (20.3%)
	循環器系	238人 (8.5%)
	損傷・中毒及びその他の外因	258人 (9.2%)
	尿路性器系	120人 (4.3%)
	妊娠・分娩	13人 (0.5%)
	不詳	314人 (11.1%)
	その他	502人 (18.0%)

(3) 疾患別輸血単位数 ※2016年7月(ひと月分)の状況

疾病別輸血単位数合計 22,970単位

}	悪性新生物	5,171単位 (22.5%)
	血液及び造血器	3,866単位 (16.8%)
	消化器系	4,008単位 (17.4%)
	循環器系	2,610単位 (11.4%)
	損傷・中毒及びその他の外因	1,347単位 (5.9%)
	尿路性器系	884単位 (3.8%)
	妊娠・分娩	79単位 (0.3%)
	不詳	1,628単位 (7.1%)
	その他	3,377単位 (14.8%)

Ⅷ（１）診療科別輸血状況（２００床以上の医療施設のみ回答 回答医療施設数：３０）

※内２施設が、輸血患者数の統計が不可であったため、集計結果から除外した

赤血球製剤輸血患者数 【全診療科患者数 １２，８７２人】

内科全体数	6, 281人
{ 消化器内科：	2, 032人
{ 循環器内科：	786人
{ 呼吸器内科：	97人
{ 血液内科：	2, 637人
{ その他内科：	729人

外科全体数	4, 374人
{ 消化器外科：	1, 271人
{ 呼吸器外科：	66人
{ 心臓血管外科：	977人
{ 形成外科：	81人
{ 整形外科：	1, 357人
{ 脳神経外科：	294人
{ その他外科：	328人

その他診療科全体数	2, 217人
{ 小児科：	146人
{ 産婦人科：	449人
{ 泌尿器科：	674人
{ 麻酔・集中治療科：	811人
{ その他：	137人

血小板製剤輸血患者数 【全診療科患者数 2, 366人】

内科全体数	1, 338人
{ 消化器内科：	92人
{ 循環器内科：	49人
{ 呼吸器内科：	14人
{ 血液内科：	1, 132人
{ その他内科：	51人

外科全体数	650人
{ 消化器外科：	93人
{ 呼吸器外科：	10人
{ 心臓血管外科：	469人
{ 形成外科：	2人
{ 整形外科：	36人
{ 脳神経外科：	22人
{ その他外科：	18人

その他診療科全体数	378人
{ 小児科：	72人
{ 産婦人科：	42人
{ 泌尿器科：	71人
{ 麻酔・集中治療科：	174人
{ その他：	19人

血漿製剤輸血患者数 【全診療科患者数 2, 596人】

内科全体数	518人
消化器内科：	321人
循環器内科：	85人
呼吸器内科：	0人
血液内科：	68人
その他内科：	44人

外科全体数	1, 223人
消化器外科：	331人
呼吸器外科：	6人
心臓血管外科：	697人
形成外科：	3人
整形外科：	74人
脳神経外科：	53人
その他外科：	59人

その他全体数	855人
小児科：	68人
産婦人科：	135人
泌尿器科：	76人
麻酔・集中治療科：	556人
その他：	20人

VIII (2) 診療科別輸血状況 (輸血単位数)

赤血球製剤輸血単位数 【全診療科単位数 68, 421単位】

内科全体数	30, 318単位
消化器内科：	11, 299単位
循環器内科：	4, 092単位
呼吸器内科：	414単位
血液内科：	10, 770単位
その他内科：	3, 743単位

外科全体数	25, 715単位
消化器外科：	6, 719単位
呼吸器外科：	374単位
心臓血管外科：	10, 430単位
形成外科：	313単位
整形外科：	4, 833単位
脳神経外科：	1, 364単位
その他外科：	1, 682単位

その他全体数	12, 388単位
小児科：	1, 331単位
産婦人科：	2, 103単位
泌尿器科：	2, 912単位
麻酔・集中治療科：	5, 469単位
その他診療科：	573単位

血小板製剤輸血単位数 【全診療科単位数 80,018単位】

内科全体数	50,815単位
消化器内科：	2,050単位
循環器内科：	975単位
呼吸器内科：	185単位
血液内科：	46,615単位
その他内科：	990単位

外科全体数	14,570単位
消化器外科：	2,275単位
呼吸器外科：	555単位
心臓血管外科：	10,330単位
形成外科：	30単位
整形外科：	630単位
脳神経外科：	325単位
その他外科：	425単位

その他全体数	14,633単位
小児科：	9,545単位
産婦人科：	760単位
泌尿器科：	575単位
麻酔・集中治療科：	3,335単位
その他診療科：	418単位

血漿製剤輸血単位数 【全診療科単位数 24,975単位】

内科全体数	6,003単位
消化器内科：	2,548単位
循環器内科：	741単位
呼吸器内科：	0単位
血液内科：	760単位
その他内科：	1,954単位

外科全体数	12,061単位
消化器外科：	3,262単位
呼吸器外科：	30単位
心臓血管外科：	7,936単位
形成外科：	8単位
整形外科：	306単位
脳神経外科：	238単位
その他外科：	281単位

その他全体数	6,911単位
小児科：	360単位
産婦人科：	590単位
泌尿器科：	354単位
麻酔・集中治療科：	5,309単位
その他診療科：	298単位

IX 自己血輸血について

自己血輸血実施病院：28病院（31.8%）

○貯血式自己血輸血（液状保存）

実施症例数（同種血併用例）：1,534例（16例）

採血量（貯血量）：4,550.6単位

使用量（輸血量）内訳：3,943.4単位

○貯血式自己血輸血（凍結保存）

実施症例数（同種血併用例）：8例（0例）

採血量（貯血量）：16単位

使用量（輸血量）：5単位

○回収式自己血輸血

実施症例数（同種血併用例）：548例（174例）

使用量（輸血量）：1,282単位

○希釈式自己血輸血

実施症例数（同種血併用例）：15例（0例）

採血量（貯血量）：46単位

使用量（輸血量）：46単位

X 血漿分画製剤使用状況について

グロブリン製剤合計：13,917本【12,872本】

たん白製剤合計：30,546本（内 アルブミン製剤30,285本）

組織接着剤合計：6,801本

血液凝固因子製剤合計：9,612本

その他血漿分画製剤：2,224本

血漿分画製剤使用本数合計：63,100本

X I 製剤別購入量・廃棄量について

（1）赤血球製剤の購入量は104,835単位、廃棄量は1,637単位、廃棄率は1.6%。

（2）血小板製剤の購入量は118,595単位、廃棄量は400単位、廃棄率は0.3%。

（3）血しょう製剤の購入量は28,233単位、廃棄量は441単位、廃棄率は1.6%

X II 外来輸血及び在宅輸血について

（1）外来輸血実施医療施設数：41施設

（2）在宅輸血の実施：1施設

（3）在宅輸血の際の交差適合試験の実施：1施設

（2017年3月31日までの集計分）